Progress 未来へはばたく在学生

東洋大学には学問・研究・スポーツ・ボランティアなど、多彩な領域で活躍する学生がたくさんいます。今回は、飛び級制度を利用し大学院へ進学し、さらに博士前期課程を短期修了した渡邊 夢良己さんにお話を伺いました。

総合情報学研究科
総合情報学専攻 博士後期課程 1年
（藤本研究室）

渡邊 夢良己（ゆらな）さん

総合情報学部3年時に
飛び級試験で大学院入試に合格
博士前期課程を短期修了
2019年7月の国際学会「IIAI-AAI2019」*で
特別賞を受賞
*IIAI-AAI2019=8th International Congress on Advanced Applied Informatics

今、この瞬間を100％楽しむ。

現在は大学院で研究の毎日ですが、もともと勉強が好きなわけではなく、高校は文系で芸術系の大学や就職を希望する人と同様の授業を選択していましたし、成績も良い方とは言えませんでした。ただ昔から知らないことを知った時の、視野が広がる感覚が好きで、知識欲は旺盛でした。家族の影響で幼い時から海外を含め遠出をすることが多かったこともあり、未知の世界を知る楽しさが原体験としてあるのかもしれません。特に父の「与えられた場を100％楽しみなさい」という教えが、夢中になったものに全力で突き進む私の性格につながっています。大学進学後は、高校までの「覚える勉強」とは異なる「知る学問」の面白さにのめり込んでいきました。

好きなことを、好きなだけ研究できる場所。

学部時代は所定の単位数をあまり気にせず、少しでも興味のある講義は受講し、自分の世界を広げていました。しかし3年になり、就職活動を意識した時に、自分の知識の少なさ・未熟さに気づくと同時に「足りない」と強く感じるようになっていました。そんな考えを所属していた研究室の藤本貴之教授に相談したところ、飛び級制度の案内を受け、通常より1年早く専門的な学びを深めようとこの制度で大学院への進学を決めました。

大学院では学部に続き、同研究室に所属し、「デジタル」に「アナログ」の魅力を統合するというテーマで研究をしています。特に最近は、スマートフォンやタブレットなどで電子書籍を読む際に、めくる感覚や動作を実際の紙を用いて再現するデバイスの開発を進めています。私はアナログ派の人間なので、今でも紙の本をたくさん読みますし、自室には本やCDが数多く保管してあります。デジタル化が進む現代社会の中で、一つのものに対する愛着心が薄れているのでは？と疑問を感じていたので、現在の研究テーマは私の興味・関心と合致している上、自分の体験や感じたこと全てが研究につながっているからこそ、夢中になれているのだと思います。さらに、幸いにも私の周りにはテクノロジーに長けた方や柔軟な発想をする方が多くいるので、行き詰まっても必ずヒントや打開策を見いだすことができます。研究に没頭できる今の環境には感謝しかありません。

学ぶことへの挑戦と覚悟。

国際学会での発表など、新たな挑戦もしています。英語で会話はできても、説明となるとまた全然違うことを痛感しました。学会の場で研究内容について尋ねられた際に、第三者にわかりやすく、専門的に、かつ目上の方に失礼のない英語で伝えることは本当に難しいです。ただその一方で、全く知らない研究に触れたり、想像できない角度からの指摘をもらったりと、国際学会では参加する度に、とても新鮮で有意義な時間が過ごせています。

日々の研究では時に壁にぶつかったり、挫折を味わったりもします。大学院での経験は楽しいことばかりではありませんが、だからこそ身になるかどうかは自分次第だと強く思います。私は、自分の具体的な将来の職業を目標として定めていません。デジタルが進化した先にはどんな職業や生活があるのか想像することも難しい時代です。だからこそ今よりも知見を広げ、固まった考えに囚われず、どんな未来でも生きていける力を身につけたいと思っています。

国際学会「IIAI-AAI2019」の
「Honorable Mention Award」（特別賞）受賞時

研究室にはデータサイエンスやデザイン、
哲学書まで幅広い分野の参考書がそろっています